

「みよし市非核平和都市宣言（案）」のパブリックコメント実施結果

1 案件名

みよし市非核平和都市宣言（案）

2 募集期間

令和4（2022）年6月1日（水）から令和4（2022）年6月30日（木）まで

3 募集方法

郵便、ファクシミリ、電子メール及び直接持参による方法

4 募集結果

(1) 提出者数 ： 5 人

(2) 提出意見数： 10 件

5 寄せられた意見とみよし市の考え方

質問 番号	意見の趣旨	市の考え方(対応)
1	核兵器廃絶を願うことには賛同するが、現実問題として他国が核兵器を廃絶する可能性はほぼない。原案に記載の祈りや精神論は必要だが実際の機能としてはかなり弱いので、現実問題として、まずは核ミサイルが飛んできたときのシェルターを作る等の対策をしてはどうか。	本市では、宣言を契機として、少しでも核兵器のない世界に近づくことができるようこれまで以上に平和の実現に向けた取り組みを推進して参ります。なお、市としてシェルターの設置については考えていません。
2	現実的な対応が可能な内容とした「自衛、防衛、安全を担保する、みよし市民安心平和都市」を宣言してはどうか（宣言案あり）。	市として安心平和都市宣言については考えていません。
3	国際情勢を踏まえ、非核平和都市宣言文には世界の動きに触れる必要がある。	宣言案については、昨今の国際情勢も踏まえた内容の宣言文としておりますが、核兵器のない世界と恒久平和の実現は普遍的なものであることから、個別の国際情勢は盛り込まず、恒久的に使用できる宣言文としたいと考えています。
4	宣言をするにあたり、市民の中での話し合いを様々な形で行った上で採択することが必要である。宣言文案起草チームを作り、市民の願いや思いを募集し、市民の中に宣言を知らせていくためにも時間をかけて案を作成し、小学生以上の市民投票で決めることを提案する。	市民からのご意見については、本パブリックコメント制度の中でいただいているものと考えています。

5	発表式典は著名人、文化人による記念講演等を行ってはどうか。	宣言を記念して被爆体験伝承者を広島から招いて講話を聞くなどの「被爆体験伝承講話会」を実施するなどし、市民の皆様に本宣言とともに核兵器のない世界と恒久平和についてお伝えして参ります。
6	みよし市の強い決意に感激している。みよし市の姿勢を日本中、世界中に広げていきたいものである。	賛同の御意見として承ります。
7	2段落目、3段落目の間にそれぞれもう一文入れた方が文章のつながりがよくなり、いい宣言になるのではないか。	宣言文では、本市の決意、後世に伝えなければならないことなどをできるだけシンプルで明確に表現したいと考えています。
8	2段落目の「想いと共に後世へ引き継いでいくことは」、内容はその通りだと思うが、言い回しを整理した方が伝わりやすいのではないか。	
9	中学生の広島訪問は素晴らしいことである。可能であれば沖縄に行く機会も検討してほしい。	中学生の沖縄訪問は意義のある事ではありますが、現在のところ考えてはいません。中学生平和学習広島派遣については、継続して実施して参ります。
10	2022 年 6 月核兵器禁止条約に基づく締約国会議が開かれた、この流れの中で、みよし市が平和都市宣言に「非核」を加えたことは意義深く共鳴しあうものである。核兵器の使用は地球規模の破滅的な結果をもたらすものであり、核兵器のない世界を築くために自治体から「非核」宣言を発することはその後押しとなるものである。	賛同の御意見として承ります。